



パラリンピックをご存知でしょうか。本来は昨年、開催予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な流行で、今年の8月24日から9月5日までに延期されました。

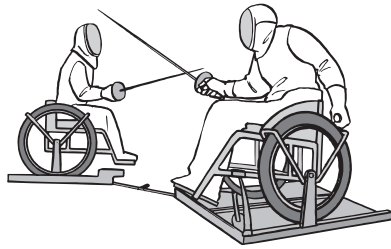
今回は、パラリンピック大会についてお伝えします。

### パラリンピックとは

障がいのあるアスリートが出場できる、スポーツの国際競技大会です。4年に一度、オリンピック夏季・冬季大会の終了後に同じ場所で開催されます。

国際パラリンピック委員会(IPC)は、大会を通じ、共生社会の実現を促進することを目指しています。

パラリンピックは当初、車いす使用者を対象としており、「パラリンピック」という言葉は、「パラプレジア(paraplegia:下半身まひ)」と「オリンピック」からの造語でした。しかし、参加対象が徐々に拡大されたことから、1985年以降は、ギリシャ語の「パラ(para:沿う、平行)」と「オリンピック」を合わせて「もう1つのオリンピック」と解釈されるようになりました。



### パラリンピックの歴史

障がいのある人々が身体運動を行っていたという記録は紀元前から見られますし、医師や体育指導師による「治療体操」として、障がいのある人々がスポーツを行っていたという記録も残っています。

現在のパラリンピックの原点となったのは、1948年7月にイギリスのストーク・マンデビル病院で、第二次世界大戦で脊髄を損傷した軍人のリハビリテーションの一環として開催された「ストーク・マンデビル競技大会」です。この大会は1952年には国際競技会となり、1960年にローマで、後に第1回パラリンピックと位置づけられる大会が開催されました。

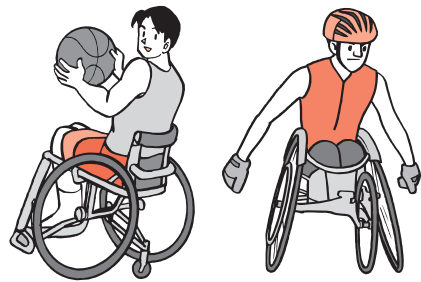
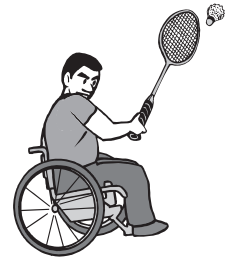
参加者16名の小規模な大会から、世界最高峰の障がい者スポーツ大会へ、パラリンピックは発展し続けています。

### パラリンピックの競技と競技人口

夏季東京パラリンピック大会の競技種目は、全部で22種目です。今回から新たに、テコンドーとバドミントンが競技種目に加まりました。

各競技種目は、同一レベルの選手同士で競い合えるようにするため、障がいの種類や程度によってクラス分けされています。

日本での障がい者スポーツの競技人口に関する調査は行われていないため、はっきりとした数はわかりませんが、障がい者スポーツ大会には、2001年以降、毎年3,200人前後が参加しています。また、2016年にリオデジャネイロで行われた夏季パラリンピック大会では、159か国から約4,300人の選手が参加したうち、日本人選手は132人でした。



### コロナ禍でのパラアスリートの現在

新型コロナウイルスの感染拡大で、障がい者スポーツ施設や公共のスポーツ施設などの利用が制限されています。介助者や周りのサポートが必要なパラアスリートにとって、密を避けての練習は厳しい試練です。競技によっては、自宅でできる練習やイメージトレーニングに限られる場合もあります。

そんな中でも、今、何ができるのかと知恵を絞り、工夫を重ねるパラアスリートたちに、東京パラリンピック大会はもちろん、その後も、あたたかいご声援をお願いします。

